2020年透析患者
実態調査書

2020年12月1日

NPO法人　兵庫県腎友会
調査委員会

目次

第１章　緒言 3
第２章　調査方法 3
第３章　患者の 生活実態 3
　第１節　年齢と家族構成 3
　第２節　収入 4
　第３節　障害者等級 5
第４章　透析実態 5
　第１節　原疾患 5
　第２節　治療法 6
　第３節　透析年数 6
　第４節　透析時間と回数 7
　第５節　透析時間帯と就労状況 7
　第６節　透析以外の通院および車椅子利用 8
第５章　通院について 9
　第１節　通院手段と通院時間 9
　第２節　通院負担 10
第６章　医療費について 10
　第１節　透析自己負担 10
　第２節　医療費全額 11
第７章　腎友会活動について 11
　第１節　腎友会の課題 11
　第２節　腎友会会費について 12
　第３節　家族会員について 12
　第４節　行事への参加について 13
　第５節　通信手段など 13
　第６節　広報誌 14
第８章　介護保険の利用実実態と介護サービスについて 15
　第１節　介護認定 15
　第２節　介護度 15
　第３節　受けている介護サービスと満足度 16
　第４節　介護に係わる自己負担額 16
第９章　不安と感ずることで 17
第１０章　総括 18

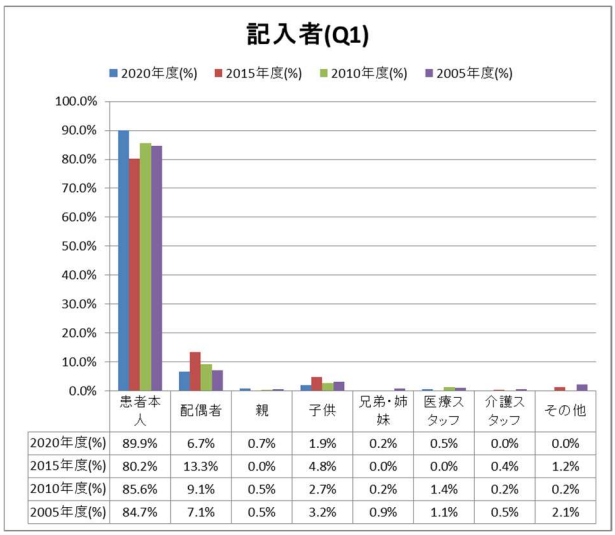
2020 年透析患者実態調査結果

第１章 緒言

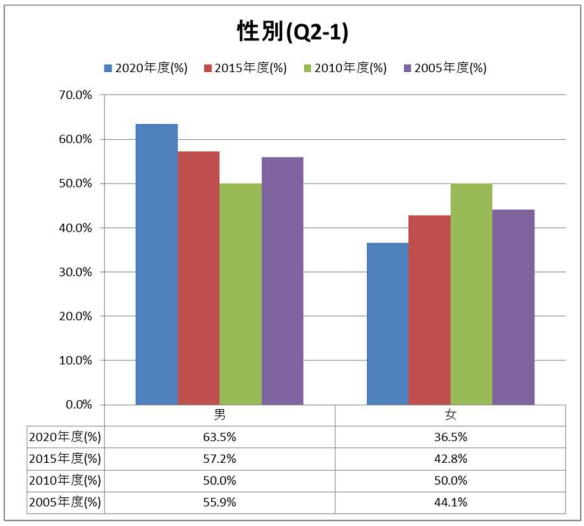
2005 年より 5 年毎にアンケート方式で患者の実態状況及び意識変化を調査し、今後の腎友会の活動方針等に資するべく、2020 年度に実態調査を実施した。

第２章 調査方法

会員番号下一桁「７」の会員等約 600 人を抽出し、2020 年 2 月に質問書を郵送し、3 月に回収した。その結果、回答数は 429（回収率 71.5%）で、これは 2020 年 3 月末会員数 5159 名の 8.3%となった。患者本人による回答が 87.4%、身近な配偶者を含めれば 91.8%で正確な回答ではないかと思われる。性別をみれば 63.5%が男性、36.5%が女性で、これは日本透析学会 2018 年調査結果による全国の透析患者の性別分類（男性 65%、女性 35%）とほぼ同じで、均等にデータを採取できていると考えられる。



	患者本人	配偶者	親	子供	兄弟・姉妹	医療スタッフ	介護スタッフ	その他
2020年度(%)	89.9%	6.7%	0.7%	1.9%	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%
2015年度(%)	80.2%	13.3%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.4%	1.2%
2010年度(%)	85.6%	9.1%	0.5%	2.7%	0.2%	1.4%	0.2%	0.2%
2005年度(%)	84.7%	7.1%	0.5%	3.2%	0.9%	1.1%	0.5%	2.1%



	男	女
2020年度(%)	63.5%	36.5%
2015年度(%)	57.2%	42.8%
2010年度(%)	50.0%	50.0%
2005年度(%)	55.9%	44.1%

※　図中の Q 番号はアンケートの質問番号に対応している。以下図でも同様

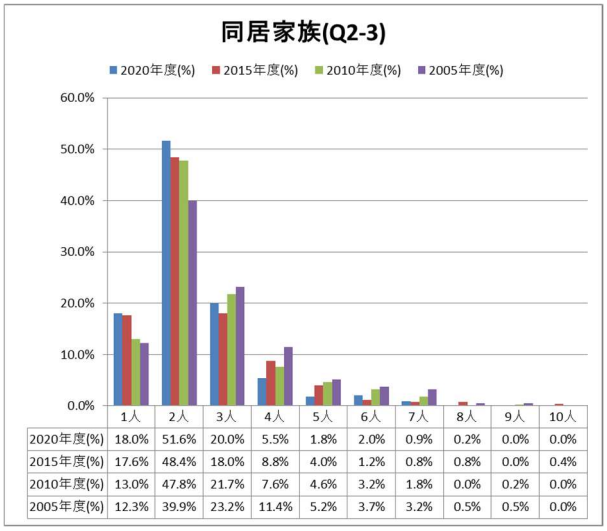
第３章 患者の 生活実態

第１節　　年齢と家族構成

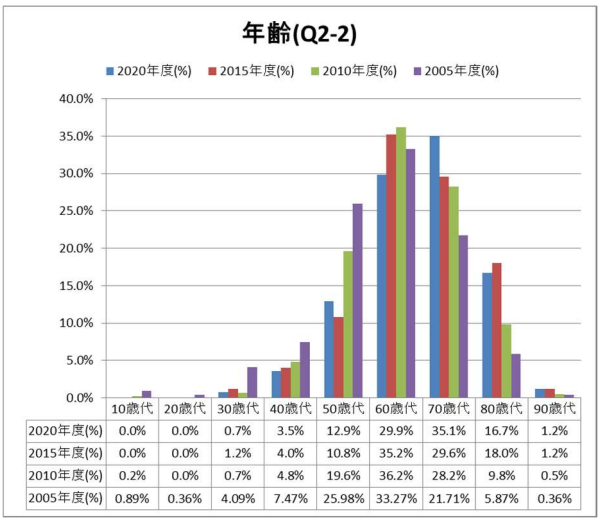
同居家族調査では一人暮らしが 18.0%（2015 年：17.6%）、二人暮らしが 51.6%（2015 年：48.4%）と 5 年前よりも更に核家族化が進んでいる。

年齢調査では 70 歳代が 35.1%、70 歳以上合計で 53.0%となり過半数を占める。2015 年調査時点では 48.8%であり、高齢化が更に進んだ。

核家族化と高齢化が透析患者にとっての課題となる。



	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人
2020年度(%)	18.0%	51.6%	20.0%	5.5%	1.8%	2.0%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%
2015年度(%)	17.6%	48.4%	18.0%	8.8%	4.0%	1.2%	0.8%	0.8%	0.0%	0.4%
2010年度(%)	13.0%	47.8%	21.7%	7.6%	4.6%	3.2%	1.8%	0.0%	0.2%	0.0%
2005年度(%)	12.3%	39.9%	23.2%	11.4%	5.2%	3.7%	3.2%	0.5%	0.5%	0.0%



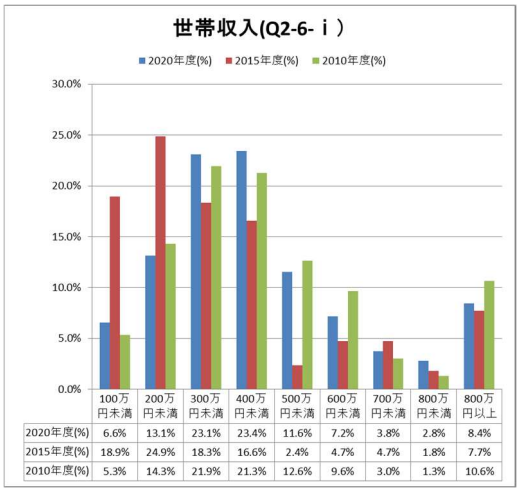
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
2020年度(%)	0.0%	0.0%	0.7%	3.5%	12.9%	29.9%	35.1%	16.7%	1.2%
2015年度(%)	0.0%	0.0%	1.2%	4.0%	10.8%	35.2%	29.6%	18.0%	1.2%
2010年度(%)	0.2%	0.0%	0.7%	4.8%	19.6%	36.2%	28.2%	9.8%	0.5%
2005年度(%)	0.89%	0.36%	4.09%	7.47%	25.98%	33.27%	21.71%	5.87%	0.36%

第２節　収入

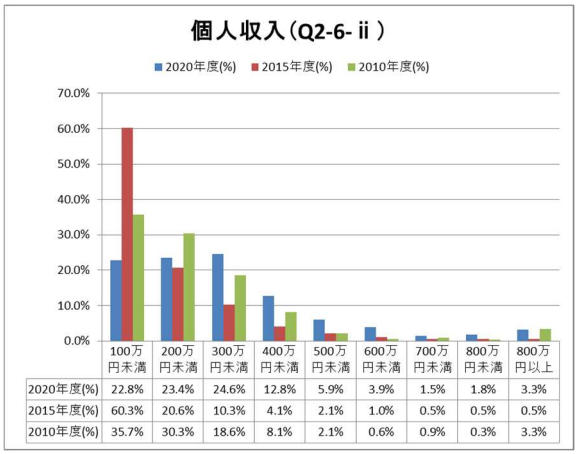
世帯収入および個人収入の未回答がそれぞれ 25.4%、21.0%と多く全体評価が難しいが、世帯収入の今回調査で 300 万円未満迄の合計は 42.8%で、これは「平成 30 年国民生活基礎調査の概況（厚生労働省）」によると 65 歳以上のみで構成されている高齢者世帯の平均年収は、334.9 万円とあり、これと整合性がある。しかし、透析医療費等を支払わなければならない透析患者には生活を圧迫する要因となる可能性がある。

個人収入では 200 万円未満までが 46.2%で、ほぼ半数が収入の大半が年金に依存していると思われる。2015 年調査では 100 万円未満が 60.3%、2010 年調査では 200 万円未満までの合計で 66%であり、個人収入の改善が世帯収入の改善につながっていると思われる。

収入の種類として年金が 89.7%と主流となっていて、年金種類としては老齢年金 37.9%、障害年金 32.3%、老齢と障害のミックスが 15.8%となっている。



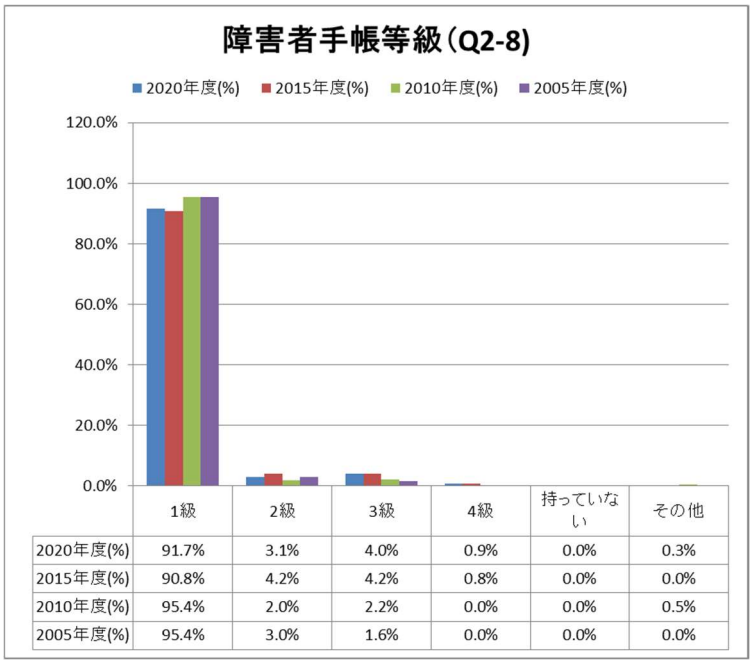
	100万円未満	200万円未満	300万円未満	400万円未満	500万円未満	600万円未満	700万円未満	800万円未満	800万円以上
2020年度(%)	6.6%	13.1%	23.1%	23.4%	11.6%	7.2%	3.8%	2.8%	8.4%
2015年度(%)	18.9%	24.9%	18.3%	16.6%	2.4%	4.7%	4.7%	1.8%	7.7%
2010年度(%)	5.3%	14.3%	21.9%	21.3%	12.6%	9.6%	3.0%	1.3%	10.6%



	100万円未満	200万円未満	300万円未満	400万円未満	500万円未満	600万円未満	700万円未満	800万円未満	800万円以上
2020年度(%)	22.8%	23.4%	24.6%	12.8%	5.9%	3.9%	1.5%	1.8%	3.3%
2015年度(%)	60.3%	20.6%	10.3%	4.1%	2.1%	1.0%	0.5%	0.5%	0.5%
2010年度(%)	35.7%	30.3%	18.6%	8.1%	2.1%	0.6%	0.9%	0.3%	3.3%

第３節　障害者等級

1 級を取得が 91.7%と大半ではあるが、2 級以下が 8.7%あり、行政の医療費助成事業等において等級差による不公平感をなくすることが出来るかが今後の活動の課題である。

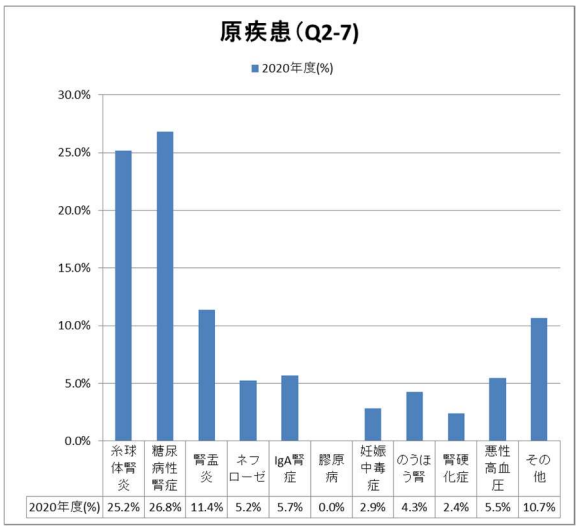


	1級	2級	3級	4級	持っていない	その他
2020年度(%)	91.7%	3.1%	4.0%	0.9%	0.0%	0.3%
2015年度(%)	90.8%	4.2%	4.2%	0.8%	0.0%	0.0%
2010年度(%)	95.4%	2.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.5%
2005年度(%)	95.4%	3.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%

第４章 透析実態

第１節　原疾患

透析患者の原疾患としては 26.8%が糖尿病性腎症、25.2%が糸球体腎炎、11.4%が腎盂炎の順であった。2018 年透析医会調査によると 39.0%が糖尿病性腎症、29.6%が糸球体腎炎となっており、今回調査とほぼ同様の傾向である。一方、同調査によれば、2010 年以前は糸球体腎炎が第一位であったが、2010 年以降は糖尿病性腎炎が第一位となっており、糖尿病の早期治療が必要になってきている。

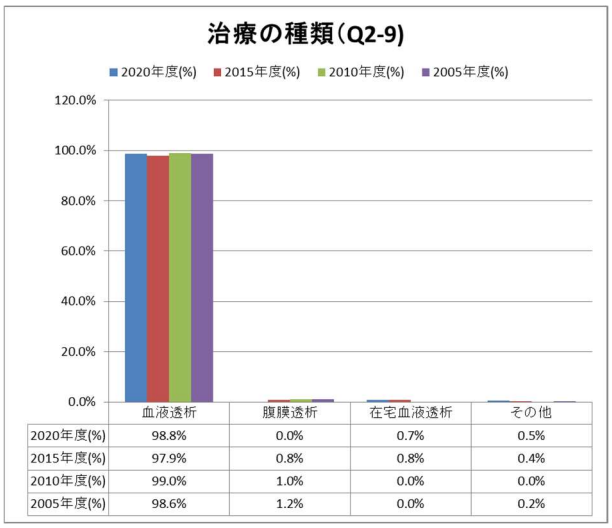


	糸球体腎炎	糖尿病性腎症	腎盂炎	ネフローゼ	IgA腎症	膠原病	妊娠中毒症	のうほう腎	腎硬化症	悪性高血圧	その他
2020年度(%)	25.2%	26.8%	11.4%	5.2%	5.7%	0.0%	2.9%	4.3%	2.4%	5.5%	10.7%

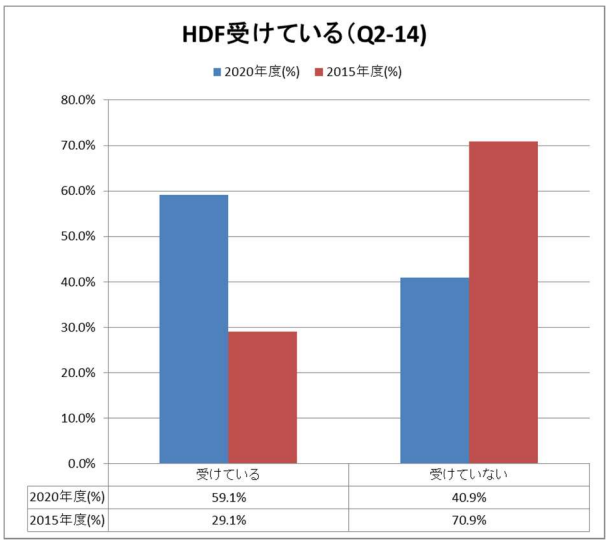
第２節　治療法

会員の 98.8%が血液透析で、そのうち血液透析濾過（HDF）が 59.1%で 2015 年調査時の HDF29.1%に比べると HDF の割合が増えてきている。

それ以外は少数であるが腹膜透析、在宅血液透析等がある。



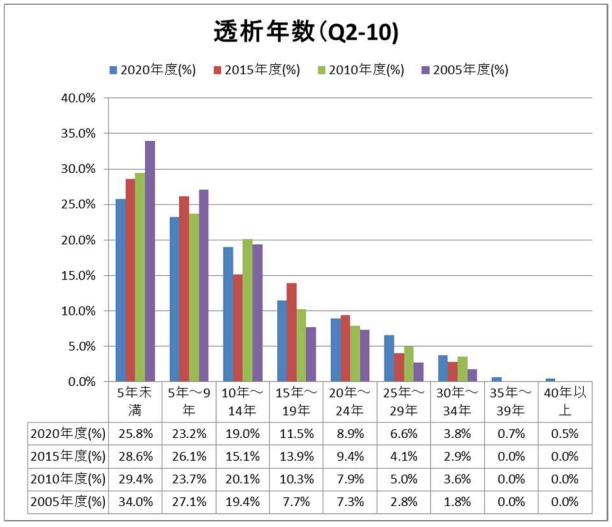
	血液透析	腹膜透析	在宅血液透析	その他
2020年度(%)	98.8%	0.0%	0.7%	0.5%
2015年度(%)	97.9%	0.8%	0.8%	0.4%
2010年度(%)	99.0%	1.0%	0.0%	0.0%
2005年度(%)	98.6%	1.2%	0.0%	0.2%



	受けている	受けていない
2020年度(%)	59.1%	40.9%
2015年度(%)	29.1%	70.9%

第３節　透析年数

透析歴をみると 49.0%が 9 年未満の透析であった。2015 年調査では 54.7%、2010 年調査時は 53.1%、2005 年調査時は 61.1%であったことから透析年数が伸びてきて半数以上が透析歴 10 年以上になってきた。最長で 40 年を超す人は 0.5%ある。これは患者の高齢化と透析医療が進歩し長生きできるようになった結果ではないかと推察する。なお全国平均透析歴では 7.34 年（2018 年透析医会調査）であった。



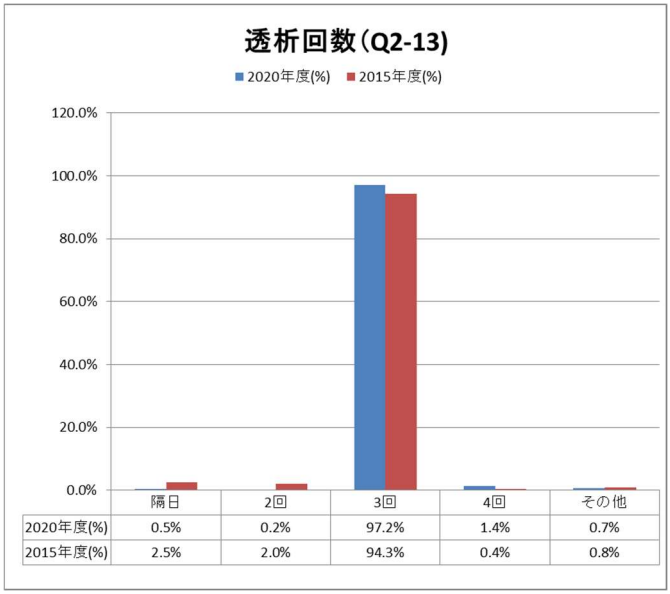
	5年未満	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年～34年	35年～39年	40年以上
2020年度(%)	25.8%	23.2%	19.0%	11.5%	8.9%	6.6%	3.8%	0.7%	0.5%
2015年度(%)	28.6%	26.1%	15.1%	13.9%	9.4%	4.1%	2.9%	0.0%	0.0%
2010年度(%)	29.4%	23.7%	20.1%	10.3%	7.9%	5.0%	3.6%	0.0%	0.0%
2005年度(%)	34.0%	27.1%	19.4%	7.7%	7.3%	2.8%	1.8%	0.0%	0.0%

第４節　透析時間と回数

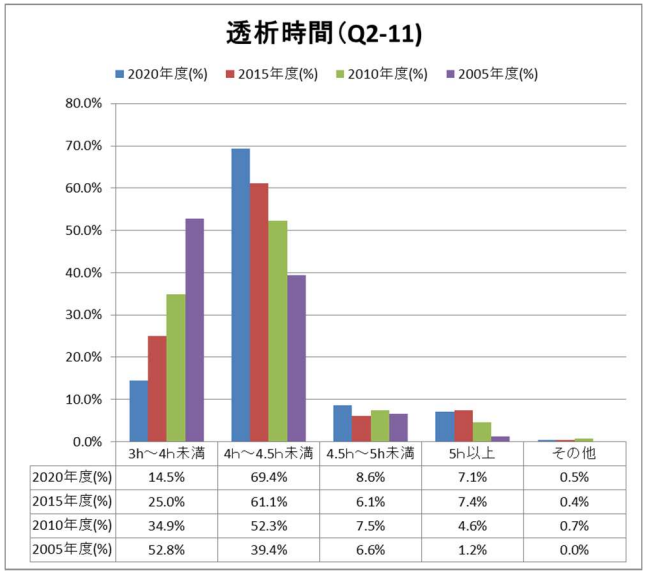
透析時間は 4 時間未満が 14.5%、4 時間から 4.5 時間未満が 69.4%で合計 83.9%と大半が 4.5 時間未満の透析を実施。一方、4.5 時間以上は 15.7%で、これは 2015 年調査時では 13.5%、2010 年調査では 12.1%、2005 年調査では 7.8%と少しずつではあるが長時間透析へ移行している。

透析回数は週 3 回が 97.2%で、前回 94.3%から増えた。更に週 4 回が 1.4%と前回 0.4%から増えてきている。

これは透析時間を延長すると緩やかにより多くの尿毒素や水分を除去できるため、合併症の低減や栄養状態の改善などが期待できるという考え方や指導があり、長時間透析へ移行した結果と思われる。



	隔日	2回	3回	4回	その他
2020年度(%)	0.5%	0.2%	97.2%	1.4%	0.7%
2015年度(%)	2.5%	2.0%	94.3%	0.4%	0.8%

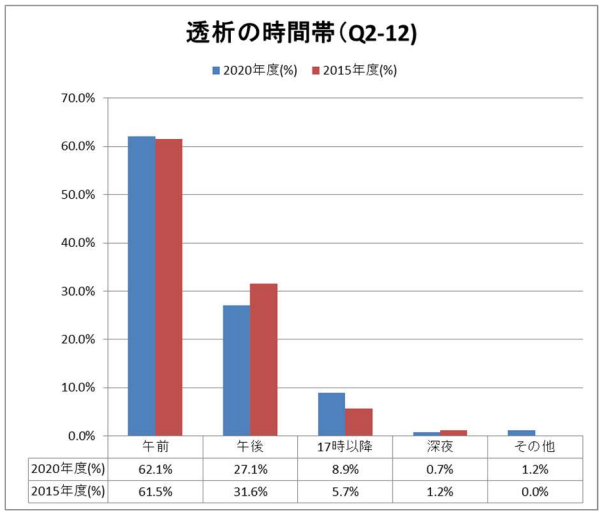


	3h～4h未満	4h～4.5h未満	4.5h～5h未満	5h以上	その他
2020年度(%)	14.5%	69.4%	8.6%	7.1%	0.5%
2015年度(%)	25.0%	61.1%	6.1%	7.4%	0.4%
2010年度(%)	34.9%	52.3%	7.5%	4.6%	0.7%
2005年度(%)	52.8%	39.4%	6.6%	1.2%	0.0%

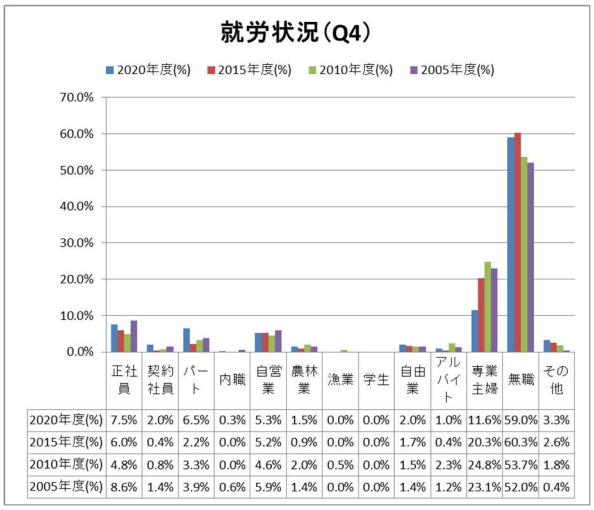
第５節　透析時間帯と就労状況

透析の時間帯では午前中が 62.1%と 2015 年調査とほぼ同じである。一方、午後が 27.1%と前回調査よりもやや減少し、17 時以降と深夜が 9.6%と増加傾向にある。

一方、就労状況の調査では、専業主婦及び無職の方が 70.6%で 2015 年が 80.6%、2010 年が 78.5%、2005 年が 75.1%と比べると何某らの就労しているかたが増えている。以上より働きながら透析を受けている人が増えていることが伺える。



	午前	午後	17時以降	深夜	その他
2020年度(%)	62.1%	27.1%	8.9%	0.7%	1.2%
2015年度(%)	61.5%	31.6%	5.7%	1.2%	0.0%

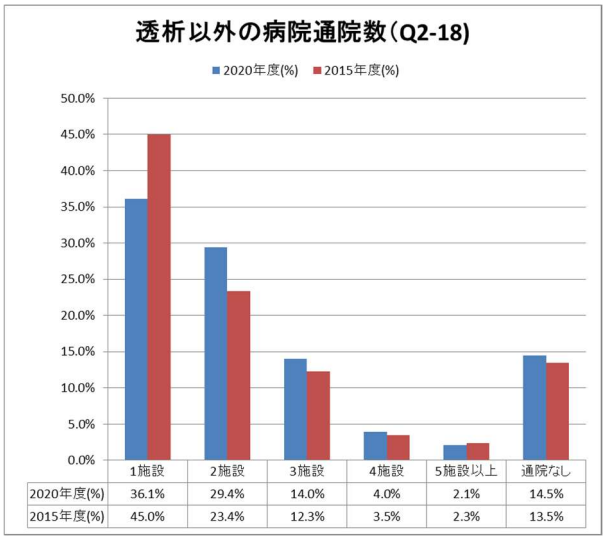


	正社員	契約社員	パート	内職	自営業	農林業	漁業	学生	自由業	アルバイト	専業主婦	無職	その他
2020年度(%)	7.5%	2.0%	6.5%	0.3%	5.3%	1.5%	0.0%	0.0%	2.0%	1.0%	11.6%	59.0%	3.3%
2015年度(%)	6.0%	0.4%	2.2%	0.0%	5.2%	0.9%	0.0%	0.0%	1.7%	0.4%	20.3%	60.3%	2.6%
2010年度(%)	4.8%	0.8%	3.3%	0.0%	4.6%	2.0%	0.5%	0.0%	1.5%	2.3%	24.8%	53.7%	1.8%
2005年度(%)	8.6%	1.4%	3.9%	0.6%	5.9%	1.4%	0.0%	0.0%	1.4%	1.2%	23.1%	52.0%	0.4%

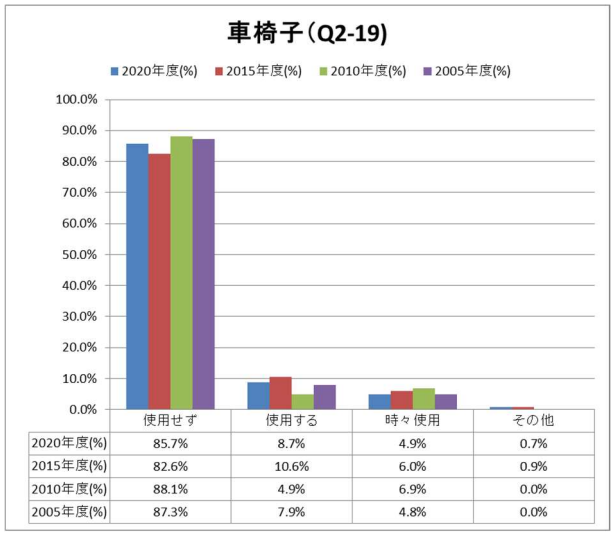
第６節　透析以外の通院および車椅子利用

透析以外に通院しているかとの質問に対し、1 施設が 36.1%、2 施設が 29.4%、3 施設が 14.0%で合計 79.5%であった。前回調査では 1 施設が 45.0%、2 施設が 23.4%、3 施設が 12.3%と合計 80.7%と若干減ったが大半が透析以外の通院が必要である。これは、合併症の治療か高齢化に伴う病気治療等のためと思われる。

車椅子使用状況の質問に対しては、8.7%が車椅子を使用、時々使用 4.9%の合計 13.6%に対し、前回及び前々回調査ではそれぞれ 16.6%、11.8%とそれほど大きな増減はない。まだ大多数が車椅子を使用しないで通院が出来ている。現在推進中の「元気アップ運動」の更なる定着で出来るだけ元気で透析を続けられる施策が必要である。



	1施設	2施設	3施設	4施設	5施設以上	通院なし
2020年度(%)	36.1%	29.4%	14.0%	4.0%	2.1%	14.5%
2015年度(%)	45.0%	23.4%	12.3%	3.5%	2.3%	13.5%



	使用せず	使用する	時々使用	その他
2020年度(%)	85.7%	8.7%	4.9%	0.7%
2015年度(%)	82.6%	10.6%	6.0%	0.9%
2010年度(%)	88.1%	4.9%	6.9%	0.0%
2005年度(%)	87.3%	7.9%	4.8%	0.0%

第５章 通院について

第１節　通院手段と通院時間

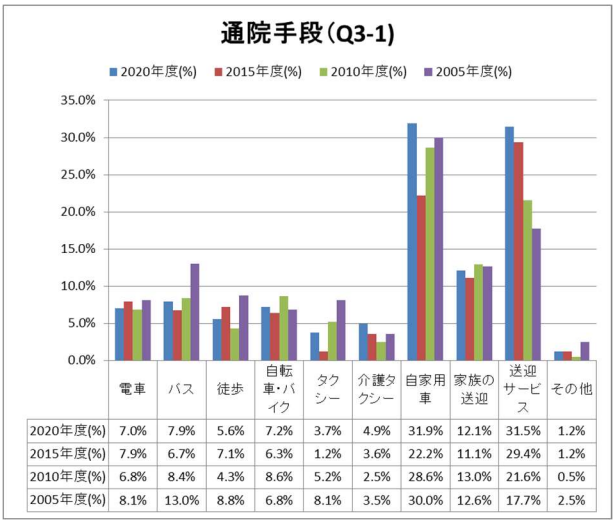
現在の通院手段についての質問では、自家用車 31.9%、送迎サービス 31.5%、公共交通機関 14.9%、家族の送迎 12.1%、その他徒歩（5.6%）、自転車とバイク（7.2%）、介護タクシー（4.9%）タクシー（3.7%）などの回答があった。

前回調査との比較では自家用車が+9.7%増加、送迎サービスが+2.1%増加、タクシーが+2.5%増加、介護タクシーが+1.3%増加、家族の送迎が+1%増加している。

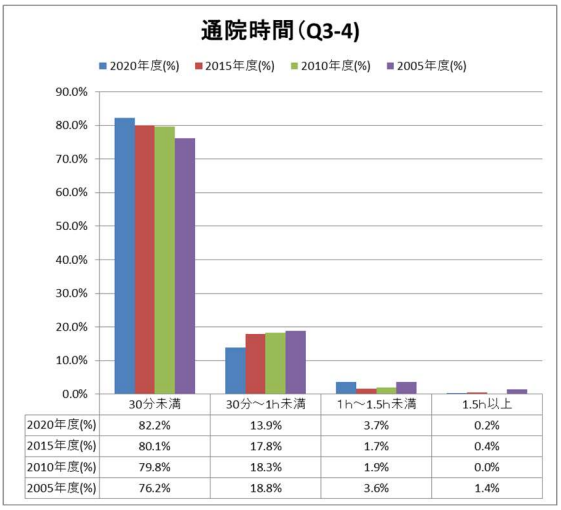
自力で運転出来る人も増えているが、一方、自力で通院できなくなり送迎サービス、タクシー利用や家族の送迎も+6.9%増えている。

通院時間の調査では 1 時間未満が 96.1%、1 時間以上 1.5 時間未満が 3.7%であった。1.5 時間以上と回答した方が 1 名（0.2%）あった。1 時間以上 1.5 時間未満の前回及び前々回調査では 1.7%、1.9%で若干通院時間が増えている

今後、自家用車利用は患者自身の高齢化するに伴い減り、送迎サービスやタクシー、家族の送迎など他人に依存することが多くなるのではないかと思われる。



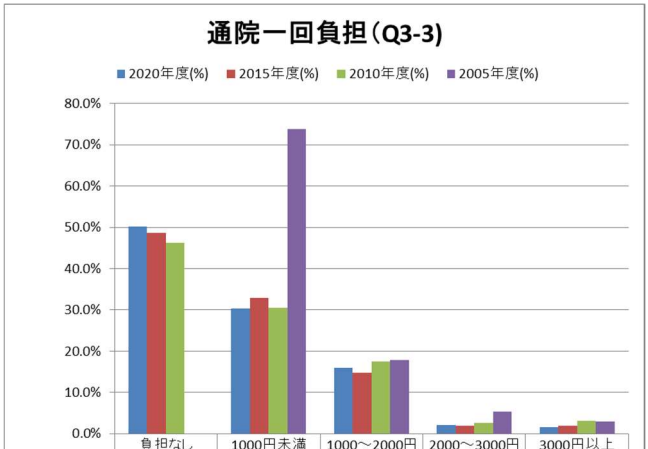
	電車	バス	徒歩	自転車・バイク	タクシー	介護タクシー	自家用車	家族の送迎	送迎サービス	その他
2020年度(%)	7.0%	7.9%	5.6%	7.2%	3.7%	4.9%	31.9%	12.1%	31.5%	1.2%
2015年度(%)	7.9%	6.7%	7.1%	6.3%	1.2%	3.6%	22.2%	11.1%	29.4%	1.2%
2010年度(%)	6.8%	8.4%	4.3%	8.6%	5.2%	2.5%	28.6%	13.0%	21.6%	0.5%
2005年度(%)	8.1%	13.0%	8.8%	6.8%	8.1%	3.5%	30.0%	12.6%	17.7%	2.5%



	30分未満	30分～1h未満	1h～1.5h未満	1.5h以上
2020年度(%)	82.2%	13.9%	3.7%	0.2%
2015年度(%)	80.1%	17.8%	1.7%	0.4%
2010年度(%)	79.8%	18.3%	1.9%	0.0%
2005年度(%)	76.2%	18.8%	3.6%	1.4%

第２節　通院負担

通院の負担の調査では 1000 円未満が 80.4%、1000 から 2000 円未満が 15.9%、2000 から 3000 円未満が 2.1%、3000 円以上が 1.6%との回答であった。1000 円未満の前回及び前々回調査では 81.5%、76.7%と大半が 1000 円未満であるが、週 3 回、年間 156 回を考えると相当負担になっている。

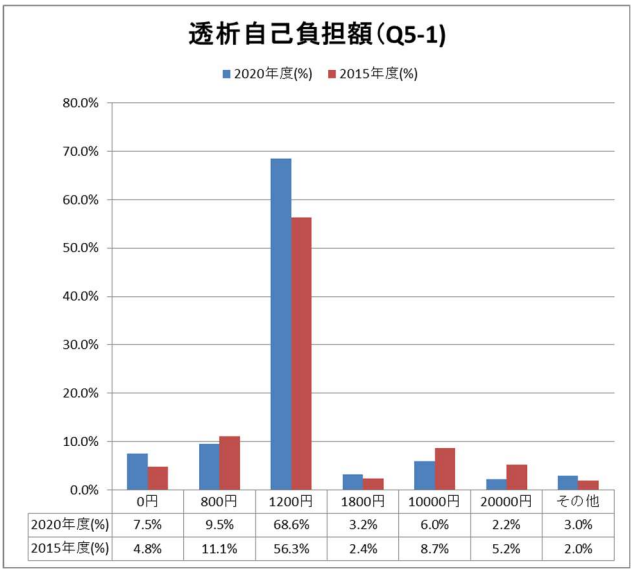


	負担なし	1000円未満	1000～2000円	2000～3000円	3000円以上
2020年度(%)	50.1%	30.3%	15.9%	2.1%	1.6%
2015年度(%)	48.6%	32.9%	14.8%	1.9%	1.9%
2010年度(%)	46.3%	30.4%	17.5%	2.6%	3.2%
2005年度(%)		73.8%	17.9%	5.3%	2.9%

第６章 医療費について

第１節　透析自己負担

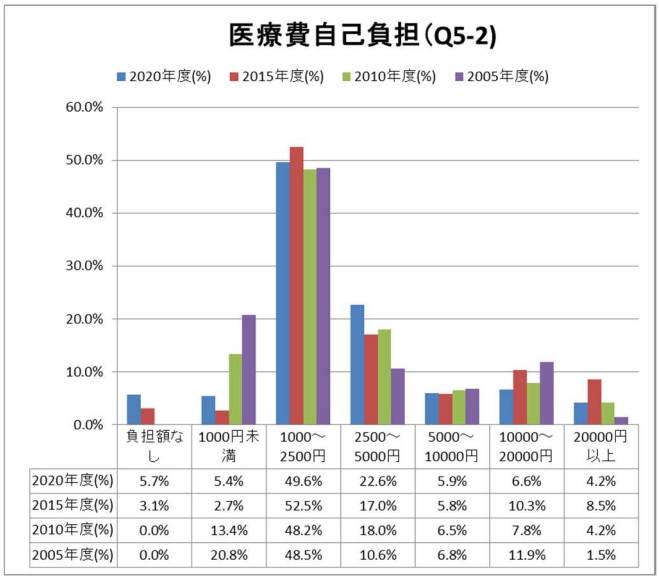
透析医療で自己負担額（月額）の調査では、1200 円が 68.6%、800 円が 9.5%、0 円が 7.5%で 1200 円以下合計が 86.6%であり、前回調査時 72.2%より増えている。これは県市の助成制度の利用の結果と思われる。一方、10,000 円が 6.0%、20,000 円が 2.2%の合計 8.8%で前回調査 13.7%より下がっている。



	0円	800円	1200円	1800円	10000円	20000円	その他
2020年度(%)	7.5%	9.5%	68.6%	3.2%	6.0%	2.2%	3.0%
2015年度(%)	4.8%	11.1%	56.3%	2.4%	8.7%	5.2%	2.0%

第２節　医療費全額

医療費全体の負担額は 2500 円未満が 60.7%（前回 58.3%）、2500 円から 5000 円未満が 22.6%（前回 17.0%）、5000 円から 10000 円未満が 5.9%（前回 5.8%）、10000 円から 20000 円未満が 6.6%（前回 10.3%）、20000 円以上が 4.2%（前回 8.5%）であった。

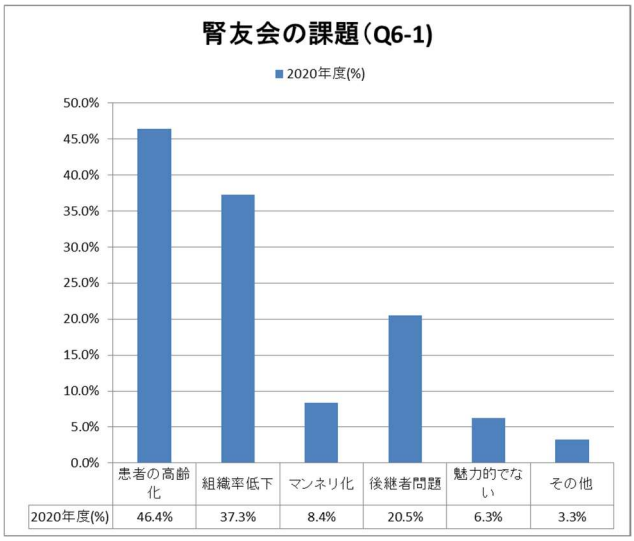


	負担額なし	1000円未満	1000～2500円	2500～5000円	5000～10000円	10000～20000円	20000円以上
2020年度(%)	5.7%	5.4%	49.6%	22.6%	5.9%	6.6%	4.2%
2015年度(%)	3.1%	2.7%	52.5%	17.0%	5.8%	10.3%	8.5%
2010年度(%)	0.0%	13.4%	48.2%	18.0%	6.5%	7.8%	4.2%
2005年度(%)	0.0%	20.8%	48.5%	10.6%	6.8%	11.9%	1.5%

第７章 腎友会活動について

第１節　腎友会の課題

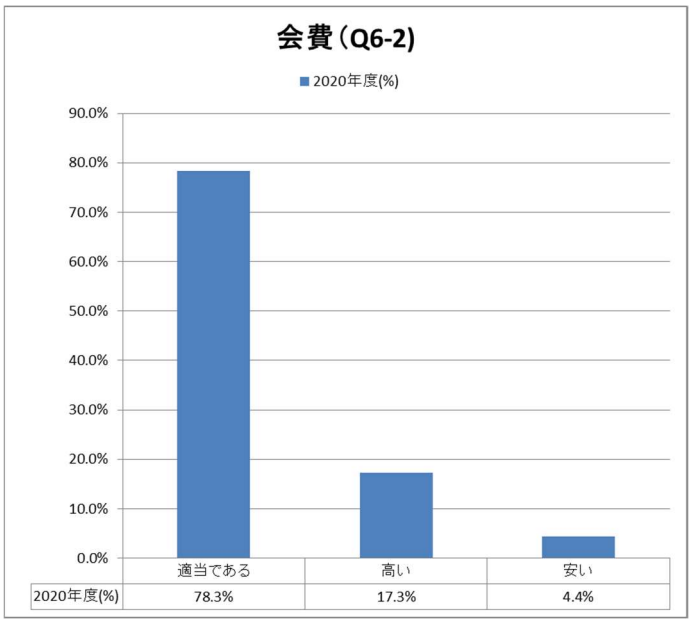
腎友会の課題についての調査では、「患者の高齢化」（46.4%）、「組織率の低下」（37.3%）、「後継者問題」（20.5%）が三大課題と捉えている。患者自身の高齢化で、役員をしてもらえる人がいないため、特定の人が長年役員をせざるをえない。役員が高齢化して後継がいなくなると患者会の存続ができなくなり、解散するといった負のスパイラルがおきるという構図が見えてくる。そのためにも、若年層の患者会への入会の必要性を理解してもらうほか、高齢化に進む中、病院との連携も必須である等の意見が多数あった。



	患者の高齢化	組織率低下	マンネリ化	後継者問題	魅力的でない	その他
2020年度(%)	46.4%	37.3%	8.4%	20.5%	6.3%	3.3%

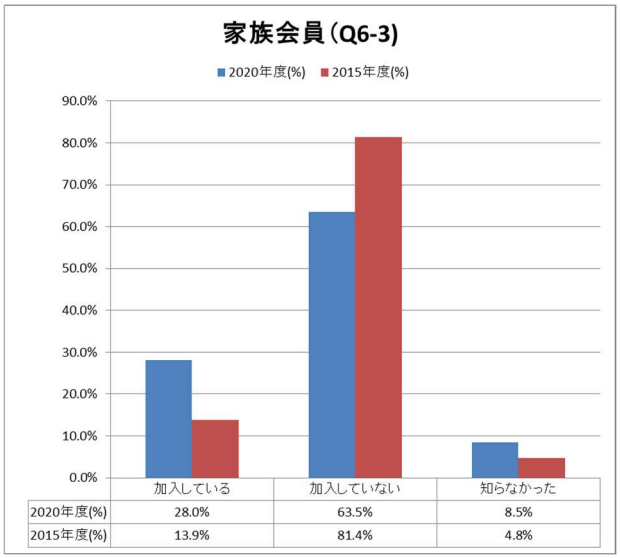
第２節　腎友会会費について

腎友会の会費についての調査では、現状（800 円+患者会会費）が「適当」との意見が 78.3%で概ね賛同を得ている。しかし、「高い」と思われている方 17.3%で、「安い」（4.4%）を上まわっている。「高い」と思う人の希望は 500 円（2 件）の回答があった。



第３節　家族会員について

家族会員に加入している人が 28.0%に対し加入していないと回答が 63.5%と倍であった。理由としては家族も高齢化、仕事をもっている、中身がわからない、必要性がわからない等の意見があり、まだまだ PR が不足しているのではと思われる。



第４節　行事への参加について

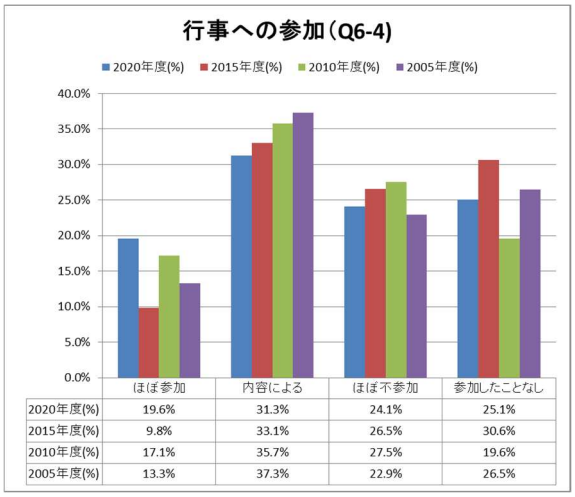
行事の参加について調査では、「ほぼ不参加」（24.1%）「参加したことがない」（25.1%）の不参加回答合計 49.2%に対し、「ほぼ参加」（19.6%）「内容により参加」（31.3%）の参加回答合計 50.9%と二分されている。2015 年調査では参加回答が 42.9%、2010 年の 52.8%、2005 年の 50.6%と大幅な改善はない。不参加の理由では

① 高齢化で体力がない、車いすである、足が不自由など体力面。

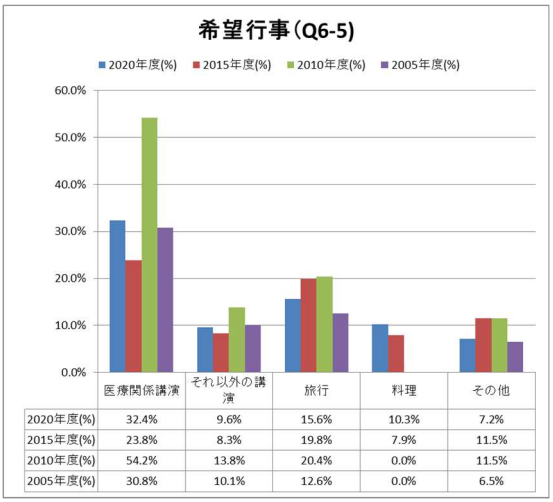
② 多忙で参加できない。

③ 友人、同世代がいない。

希望行事の調査では、医療関係講演（32.4%）、その他講演（9.6%）と講演関係で 42.0%、その他としては旅行（15.6%）、料理（10.3%）が続く。2015 年調査比較では講演関係が 32.1%から 9.9%アップ、旅行が 19.8%から 15.6%に 4.2%ダウン。講演会のニーズについては、主に医療関係の講演会への関心が増えている。高齢化による合併症への心配、健康への関心が増加しているのではないか。



	ほぼ参加	内容による	ほぼ不参加	参加したことなし
2020年度(%)	19.6%	31.3%	24.1%	25.1%
2015年度(%)	9.8%	33.1%	26.5%	30.6%
2010年度(%)	17.1%	35.7%	27.5%	19.6%
2005年度(%)	13.3%	37.3%	22.9%	26.5%

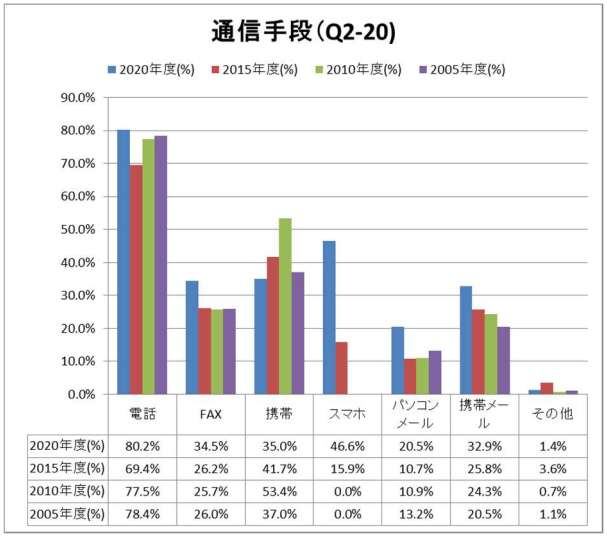


	医療関係講演	それ以外の講演	旅行	料理	その他
2020年度(%)	32.4%	9.6%	15.6%	10.3%	7.2%
2015年度(%)	23.8%	8.3%	19.8%	7.9%	11.5%
2010年度(%)	54.2%	13.8%	20.4%	0.0%	11.5%
2005年度(%)	30.8%	10.1%	12.6%	0.0%	6.5%

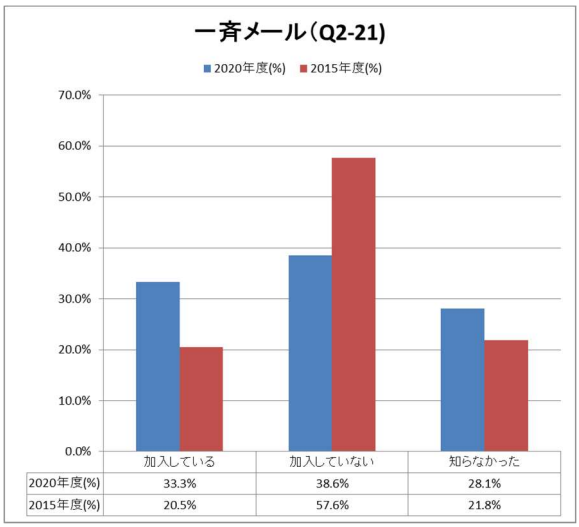
第５節　通信手段など

各自が操作可能な通信手段についての調査（複数回答）では、電話が 80.2%で、携帯・スマフォが 81.6%、FAX が 34.5%、パソコン及ぶ携帯メールのメール系が 53.4%という分布である。その他で「目が悪く出来ない」という意見もあった。

腎友会が運営している一斉メールについては、加入している人が 33.3%、加入していないが 38.6%、知らなかったが 28.1%であった。加入していない理由では、スマフォ、PC 等を持っていない。必要性を感じていない。登録が出来ない、判らないなどがある。知らなかった人や操作がわからない人への説明手段を検討すれば更なる加入が期待でき、緊急時の連絡手段として確立できるのではないか。



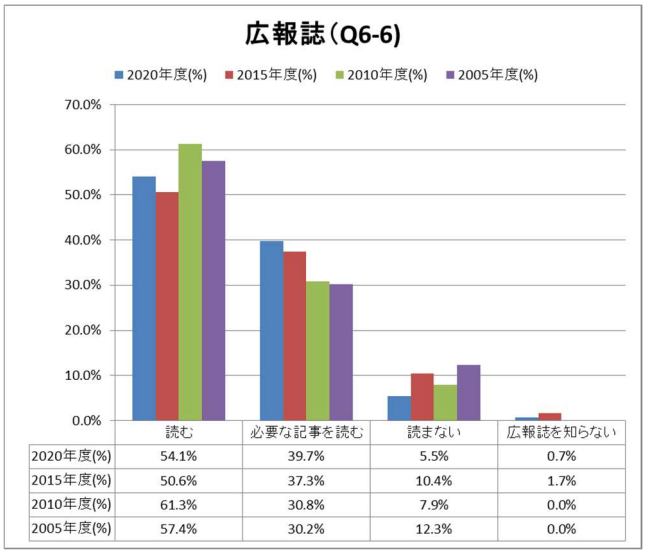
	電話	FAX	携帯	スマホ	パソコンメール	携帯メール	その他
2020年度(%)	80.2%	34.5%	35.0%	46.6%	20.5%	32.9%	1.4%
2015年度(%)	69.4%	26.2%	41.7%	15.9%	10.7%	25.8%	3.6%
2010年度(%)	77.5%	25.7%	53.4%	0.0%	10.9%	24.3%	0.7%
2005年度(%)	78.4%	26.0%	37.0%	0.0%	13.2%	20.5%	1.1%



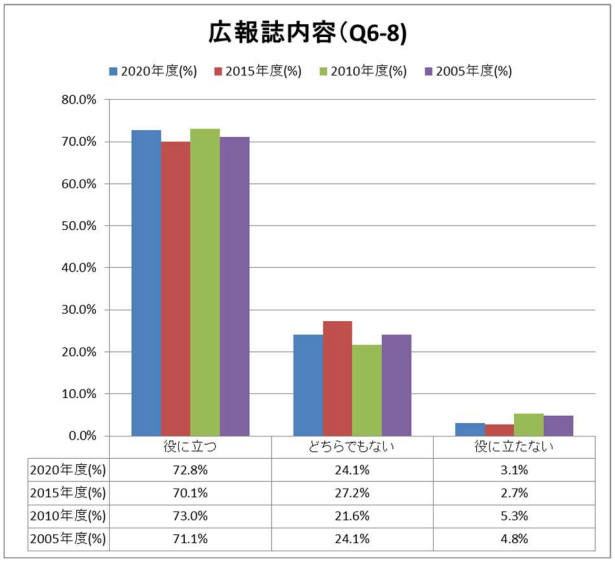
	加入している	加入していない	知らなかった
2020年度(%)	33.3%	38.6%	28.1%
2015年度(%)	20.5%	57.6%	21.8%

第６節　広報誌

広報誌に関する調査では「読む」(54.1%)、「必要な記事を読む」(39.7%) で計 93.8%が読んで頂いている。「役にたっているか」との問いに対して 72.8%が役にたっている。どちらでもない (24.1%)、役にたたない (3.1%) の回答であった。しかし、目が悪く読めないなどのコメント (4 件) もあり、音声 CD があることをもっと PR すべきである。



	読む	必要な記事を読む	読まない	広報誌を知らない
2020年度(%)	54.1%	39.7%	5.5%	0.7%
2015年度(%)	50.6%	37.3%	10.4%	1.7%
2010年度(%)	61.3%	30.8%	7.9%	0.0%
2005年度(%)	57.4%	30.2%	12.3%	0.0%

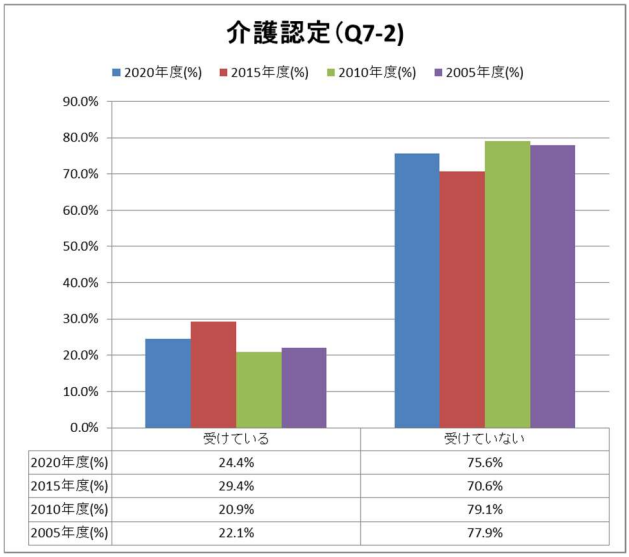


	役に立つ	どちらでもない	役に立たない
2020年度(%)	72.8%	24.1%	3.1%
2015年度(%)	70.1%	27.2%	2.7%
2010年度(%)	73.0%	21.6%	5.3%
2005年度(%)	71.1%	24.1%	4.8%

第８章 介護保険の利用実態と介護サービスについて

第１節　介護認定

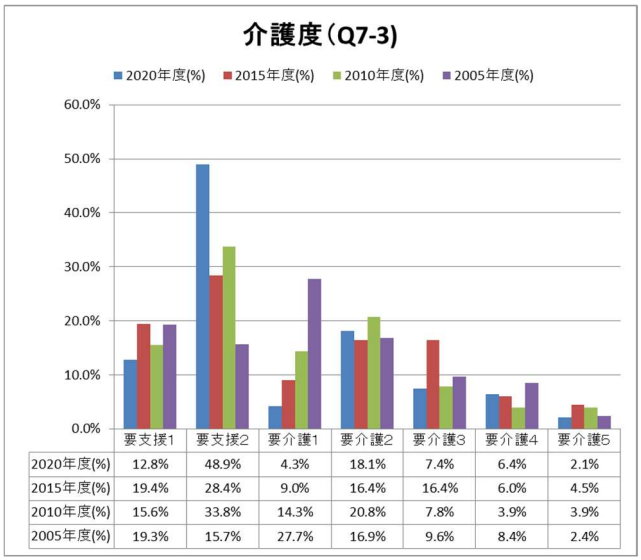
介護認定を受けている人は 24.4%、受けていない人は 75.6%。受けていない理由として「必要ない」が 58.1%、「認定検討中」が 1.9%、「受け入れられなかった」1.3%。傾向としては前回と同じであった。



	受けている	受けていない
2020年度(%)	24.4%	75.6%
2015年度(%)	29.4%	70.6%
2010年度(%)	20.9%	79.1%
2005年度(%)	22.1%	77.9%

第２節　介護度

介護認定を受けている人の内、要支援１級が 12.8%、要支援２級が 48.9%、要介護１級が 4.3%、要介護２級が 18.1%、要介護３級が 7.4%、要介護４級が 6.4%、要介護５級が 2.1%と分布している。要支援２級から要介護１級に大きな乖離があるがこれは認定基準の厳格化の影響がでているものと考えられる。

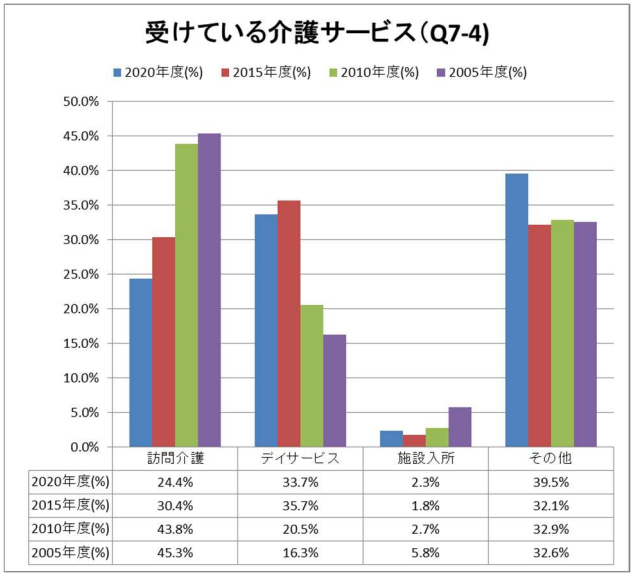


	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2020年度(%)	12.8%	48.9%	4.3%	18.1%	7.4%	6.4%	2.1%
2015年度(%)	19.4%	28.4%	9.0%	16.4%	16.4%	6.0%	4.5%
2010年度(%)	15.6%	33.8%	14.3%	20.8%	7.8%	3.9%	3.9%
2005年度(%)	19.3%	15.7%	27.7%	16.9%	9.6%	8.4%	2.4%

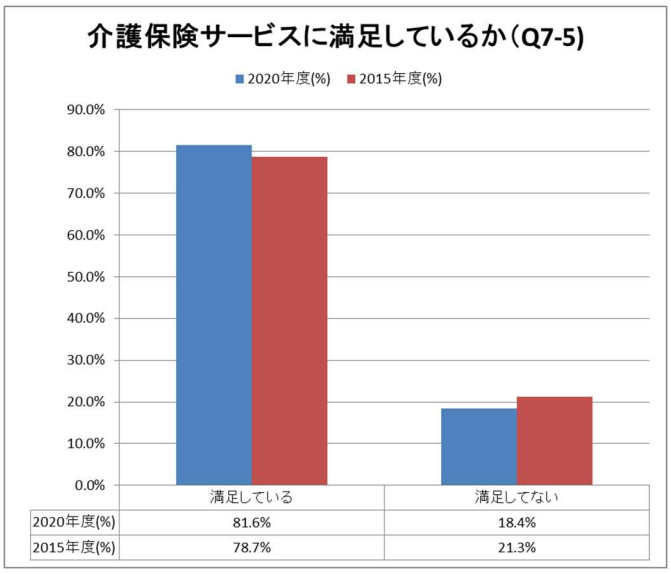
第３節　受けている介護サービスと満足度

受けている介護サービスとしては訪問介護を 24.4%、デイサービスを 33.7%、施設入所を 2.3%、その他が 39.5%となっている。

介護サービスの満足度については 81.6%が満足しており、18.4%が満足していない。



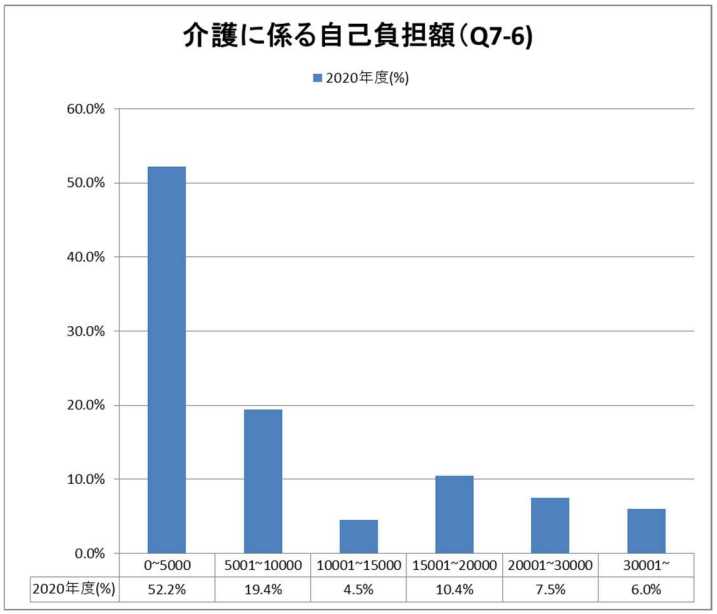
	訪問介護	デイサービス	施設入所	その他
2020年度(%)	24.4%	33.7%	2.3%	39.5%
2015年度(%)	30.4%	35.7%	1.8%	32.1%
2010年度(%)	43.8%	20.5%	2.7%	32.9%
2005年度(%)	45.3%	16.3%	5.8%	32.6%



	満足している	満足してない
2020年度(%)	81.6%	18.4%
2015年度(%)	78.7%	21.3%

第４節　介護に係わる自己負担額

5000 円未満が 52.2%、5001 円から 10000 円が 19.4%で大半が 10000 円以下であった。



	0~5000	5001~10000	10001~15000	15001~20000	20001~30000	30001~
2020年度(%)	52.2%	19.4%	4.5%	10.4%	7.5%	6.0%

第９章 不安と感ずることで

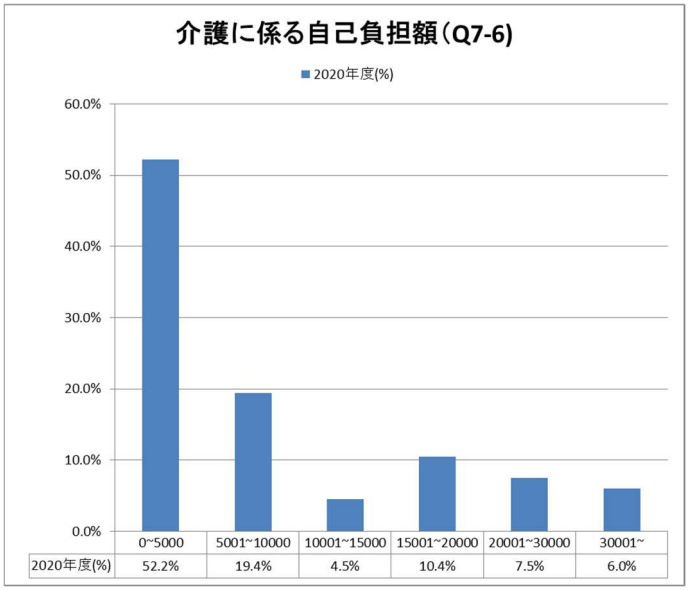
将来不安と思っていることについての複数回答では、「病状悪化」が 52.7%、「終末期医療」が 43.0%、「自己負担額の増加」が 38.2%、「災害発生」が 31.6%、以上 4 項目が上位であった。

「病状悪化」では高齢化し、体力の低下や、一人暮らしとなった時などに、どのような合併症が発症するのかと言った不安がある。

「終末期医療」についても、透析を続けながら認知症などで自分自身がコントロールできなくなった時の終末期医療がどうなるのか？　寝たきりになった時のそのような状況下での施設があるのだろうか？　脳死状態となった時の安楽死を選択できるのであろうか？

「自己負担額の増加」に対する不安としては、現在の受けている透析医療費の国、県の医療助成がいつまでも受けられるのか？高齢化し透析以外の治療費が重なって来た時に年金だけで生活ができるだろうか？医療費保険自己負担割合が増えるのではないか？などの不安を感じている。

「災害発生」については、最近の天災が多い状況下では透析中の被災した場合、安全に避難ができるのだろうか？透析病院の被災で、遠方へ行き透析をすることになった場合、移動が可能だろうか？　等の意見があった。



第１０章　　総括

今回の調査から明らかになった主な点を下記に示した。これらの項目は、今後の腎友会活動の課題であり、引き続き検討をしていかなければならない。

１．高齢化と核家族

今回の調査から患者の高齢化が進むとともに、患者の核家族(夫婦二人暮し、独居)が多くなり、今後、介護が必要となった場合や、症状が重篤化した場合など終末期医療等の諸施策の検討の必要に迫られていることが分った。

２．合併症と介護

多くの透析患者が合併症を心配しており、すでに発症している合併症は多岐にわたっている。また、高齢化に伴う運動機能の低下による諸問題、および介護問題も大きな課題となってきていることが分った。

３．災害

すべての透析患者が自然災害時の避難および透析治療の継続確保について不安を感じており、引き続き国会請願、地方自治体への要望活動を続けなければならないことが分った。

４．医療費

多くの透析患者は医療費増加に不安を感じており、今後も現行の医療費水準を維持するための活動の重要性が確認された。

５．腎友会活動

腎友会活動については、①会員数の減少、②腎友会設立の意味 PR 不足、③患者会役員の確保、④患者会役員の負担過多、⑤活動のマンネリ化、⑥会員の高齢化と若年役員の減少、⑦

病院との協調及び協力の確保と推進、⑧高齢者向けプログラムなど検討すべき諸課題の提案があった。

５．家族会

家族会員制については、必要性や制度の意味の周知が不徹底で会員の理解を進める活動が必要のあることが分った。

調査委員会

委員長　酒井　隆（阪神ブロック）

事務局　浅野　兵庫（事務局）

委員　　富田　友樹（東播ブロック）

委員　　山下　隆志（神戸ブロック）